

2020年11月4日

国の債務管理の在り方に関する懇談会座長
田中 直毅 様

国の債務管理の在り方に関する懇談会委員 新分 敬人
(農林中央金庫 代表理事専務 グローバル・インベストメンツ本部長)

意見書

国の債務管理の在り方に関する懇談会を所用により欠席いたしますので、書面にて下記のとおり意見を述べます。

記

1 コロナ対応のために大規模な対策が講じられているが、財政拡張により経済をサポートすることに異論はない。コロナがまだ終息しない中、経済が元の水準に戻るまでには時間を要することが考えられ、財政の崖を生じないようにするならば、引き続き大量の国債発行が求められるが、発行年限等は市場との対話を踏まえたものが必要である。

一方、長期的には財政健全化への取組が引き続き重要であり、今般の財政拡張により箍が外れてはならず、日本国債への信用力維持・向上を図っていくことが肝要。

2 海外ではグリーンボンドの発行が多くなっているが、日本では引き続き少ない印象がある。投資家としては ESG ラベルを志向する傾向があるのも事実であり、日本でも検討余地があるのではないかと。

例えば、日本国債でグリーンボンドを発行する場合、予算会計制度との兼ね合いやマーケットとの関係が論点となろう。後者でいえば、どういう投資家が選好するのか、セカンダリー含めた流動性が確保されるのか、安定的な国債調達に資するのか等、前者とあわせてハードルはあると思うものの、各国当局の発行状況や検討状況には注視が必要と認識している。

以上